

第5回定例研究会

3.11 震災の影から浮かび上がってきた地域の暮らし

第5回定例研究会は、青山学院大学総合文化政策学部教授の黒石いずみ先生をお招きして、「3.11震災の影から浮かび上がってきた地域の暮らし」というテーマで講演いただきました。

【講師プロフィール】

1953年 秋田県生まれ

一級建築士、Ph.D(建築理論)

東京大学工学部建築学科、大学院を修了後、設計事務所で7年間勤務、大学や劇場、住宅の設計を行う。

出産を機に大学院に戻り米国留学。ペンシルバニア大学芸術学部建築学科博士課程で学位取得。

2001年から青山学院大学教員。

博士論文で扱った民家・考現学・生活学研究者今和次郎の研究を軸に、住居や地域振興、近現代デザインの研究、都市空間の調査等を行ってきた。

2011年から2012年にかけて青森・東京・大阪で行われた「今和次郎採集講義展」の監修を行う。

3.11を機に、主に気仙沼で生活文化を軸とした復興支援の方法をいろいろと模索中。現在は郷土食とその空間、思い出の景観の調査と活動をゼミの学生と継続している。

仮設住宅のお母さん達との語らいの中で、その住まいや日常生活の場が一刻も早く安らかなものになるように願っている。

講師

黒石 いずみ 氏 (青山学院大学 総合文化政策学部 教授)

テーマ

3.11震災の影から浮かび上がってきた地域の暮らし

講演日

2013年1月26日 (土) 14:00 ~ 17:00 受付開始 13:30~

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205



©生活美学研究所